



2026年3月18日掲載

## ところでプライベート・デットって何が問題？

最近の市場の話題のひとつが、米国のプライベート融資ファンドの問題です。投資家からファンドに資金を集め、企業に直接融資をして利息などから分配をします。プライベートという言葉は、政府の規制下にある銀行を経由しない融資であることから来ています。

銀行が融資を避ける中小の新興企業などへの融資が多く、リスクが高い分、融資の金利が高いので、ファンドの利回りも高くなりやすいです。ただし、経済環境が揺らぐと、融資の返済が滞る恐れも高くなります。

最近複数の大型ファンドが、投資家の解約を制限しました。人工知能(AI)の性能が急激に良くなったことで、新興IT企業の事業とそれに対する融資のリスクが高くなり、一部投資家が資金を引き上げようとしたので、他の融資先への悪影響を避けるため解約を制限したようです。

また、一部ファンドの決算で収益環境悪化が示され、資金引き出しの懸念が強まりました。さらに、イランでの紛争拡大で石油価格が上昇し、インフレによる金利上昇が融資への悪影響となることを恐れる投資家も出てきました。

一つ一つの話題は独立で相互に関連しているわけではありません。一部の銀行がファンドに投資していて金融システムに繋がっているとの心配もありますが、今のところ大きな問題になる兆しはありません。ただし、それぞれ独立した問題でも、同時多発的に起こると経済悪化につながる恐れがあるので、政府の対応を含めて注目しています。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》